

テーマ	鳥取砂丘の動物のインベントリー作成と生活史・群集の調査
発表者	鶴崎展巨 鳥取大学地域学部 教授
概要	インベントリー（動植物の種目録や分布図）作成は地域の生物多様性の研究・保全・利用の基礎としてきわめて重要である。鳥取砂丘には海岸砂丘特有の興味深い動植物（レッドデータブック掲載種を多数含む）がみられるが、そのインベントリーははなはだ不十分で、希少種の保全はもとより、鳥取砂丘の自然観察や観光にもほとんど活かされていない。この問題の解消をめざし、鳥取砂丘および山陰海岸の昆虫相・クモ相の解明を進めている。

<p>『目的』 鳥取砂丘と山陰海岸の昆虫・クモなどの正確な同定にもとづく種リストの作成、分布図作成、生活史情報の蓄積と、鳥取砂丘の動物の同定の手引きや観察のためのテキスト作成。</p> <p>『方法・手法』 文献記録を検討し、同定の信頼性の高いものを選別して種の予備的リストを作成する。また、現地の実地調査により、分類学的検討を加えてより精度の高い種リストや分布図を作成する。</p> <p>『結果』 文献記録および新たに採集（目撃確認を含む）した標本に基づき、鳥取砂丘（狭義）の昆虫として 13 目 130 科 600 種の記録を予報としてまとめた(佐藤隆士・鶴崎展巨 2010. 鳥取砂丘の昆虫相(予報).鳥取県立博物館研究報告, No. 47, pp. 45-81.)。このうち 58 種は今回、鳥取砂丘から新たに確認されたものである。このリストは環境省版レッドリスト（2007）掲載種を 10 種、鳥取県版レッドデータブック（2002）の掲載種を 18 種含んでおり、鳥取砂丘がとくに海浜性の希少昆虫の生息地として重要であることを示している。</p> <p>これと並行して、これまでにウスバカゲロウ類、アリ類、クモ、海岸の打ち上げゴミ下の昆虫相を調査した。林地のクモは 17 科 44 種を確認した。うち 32 種は鳥取砂丘からはじめて記録された種で、これまでの記録と合わせて鳥取砂丘のクモは 21 科 66 種となった。アカハネグモ、コジャバラハエトリ、オビボソカニグモ、スズミグモの 4 種は鳥取県新記録種である。後浜の打ち上げ有機物下からは採集した甲虫のうち種名まで確定しているのは写真の 7 種である。このうち、5 種は鳥取砂丘では初めての確認である。アリ科については今回の現地調査で 16 種を確認できた。このうち、新記録種は広義の鳥取砂丘からは 7 種、狭義の鳥取砂丘からは 11 種であった。</p> <p>『まとめにかえて』</p> <p>2010 年 10 月 22-23 日に鳥取大学地域学部において開催される日本応用動物昆虫学会中国支部・日本昆虫学会中国支部合同例会において、下記の公開シンポジウム（聴講無料。10 月 23 日土曜 13:00～15:30）がおこなわれます。興味のおありの方は是非ご来場下さい。</p> <p>公開シンポジウム 砂丘と海浜の昆虫の自然史 - 昆虫相・分布・生活史（企画：鶴崎展巨・川上 靖）</p> <p>鶴崎展巨（鳥取大）鳥取砂丘のアリゾゴクの生活史と山陰地方の海岸におけるチェッカー盤型分布 一澤 圭（鳥取県立博物館）鳥取砂丘のトビムシ・ササラダニの分布 宮永龍一（島根大）山陰地方海浜のハナバチ相 林 成多（ホシザキグリーン財団）山陰地方の海浜性甲虫相と分布 端山 武[宝塚市]出雲市外園海岸における砂浜・砂丘・海岸林の海浜性甲虫相 河上 康子[高槻市]山陰地方沿岸部と瀬戸内・近畿地方沿岸部における海岸性甲虫相の比較</p>	 <p>A. ヒョウタンゴミムシ, B. ヤマトケシマゴソコガネ, C. カラカネハマベエンマムシ, D. コケシガムシ, E. ヒメホソハマベゴミムシダマシ, F. ニセマゴソコガネダマシ, G. ハマヒョウタンゴミムシダマシ</p>
--	--

【ライセンス情報】 発明の名称:	発明者:
【来場者へのメッセージ】(明朝、10. 5ポイント、想定される利用分野等を記入して下さい)	
希少野生動物の保全管理、鳥取砂丘での環境学習に活かされるとともに、砂丘や山陰海岸の文化財・観光資源としての価値の付加・増大にも寄与すると考えています。	
連絡先: 鳥取大学地域学部地域環境学科 教授 鶴崎展巨 (つるさきのぶお)	
鳥取市湖山町南 4-101 TEL. 0857-31-5100 E-mail: ntsuru@rstu.jp	
分野	生物多様性科学, 動物分類学, 群集生態学
プレゼンタイム	有 (無)